

# 千葉市感染症発生動向調査情報

2017年 第48週 (11/27-12/3) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		48週	47週	46週	45週
上段:患者数	小児科	18	18	18	18
下段:定点当たりの患者数	眼科	5	5	4	5
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	11/27-12/3	11/20-11/26	11/13-11/19	11/6-11/12	11/20-11/26
			48週	47週	46週	45週	47週
小児科	RSウイルス感染症		3 0.17	4 0.22	3 0.17	5 0.28	47 0.35
	咽頭結膜熱	○	7 0.39	4 0.22	2 0.11	6 0.33	84 0.62
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	46 2.56	44 2.44	53 2.94	36 2.00	370 2.74
	感染性胃腸炎		149 8.28	113 6.28	90 5.00	69 3.83	750 5.56
	水痘		14 0.78	12 0.67	8 0.44	6 0.33	77 0.57
	手足口病		23 1.28	28 1.56	19 1.06	27 1.50	204 1.51
	伝染性紅斑		0 0.00	3 0.17	0 0.00	1 0.06	8 0.06
	突発性発しん		4 0.22	4 0.22	10 0.56	10 0.56	52 0.39
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.01
	ヘルパンギーナ		1 0.06	4 0.22	0 0.00	3 0.17	15 0.11
	流行性耳下腺炎		4 0.22	4 0.22	6 0.33	9 0.50	28 0.21
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		57 2.04	49 1.75	23 0.82	8 0.29	310 1.44
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		2 0.40	5 1.00	5 1.25	4 0.80	15 0.43
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ○:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(5件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	70歳代	画像診断	梅毒	男性	60歳代	血清抗体の検出
結核	女性	90歳代	病原体遺伝子の検出	梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出
侵襲性肺炎球菌感染症	男性	60歳代	病原体の検出	-	-	-	-

・第48週は、結核2件(193)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(25)、梅毒2件(30)の報告があった。

※ ( )内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

## 定点当たり報告数 第48週のコメント

<咽頭結膜熱> 前週より増加し0.39となった。過去10年の同時期と比べると、2014年と並び最多。

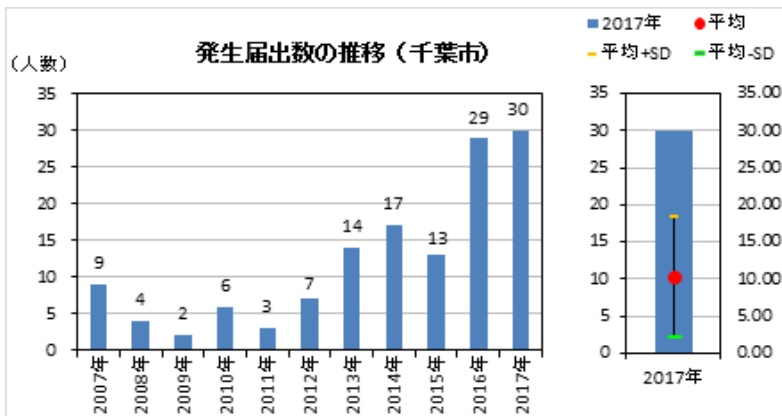
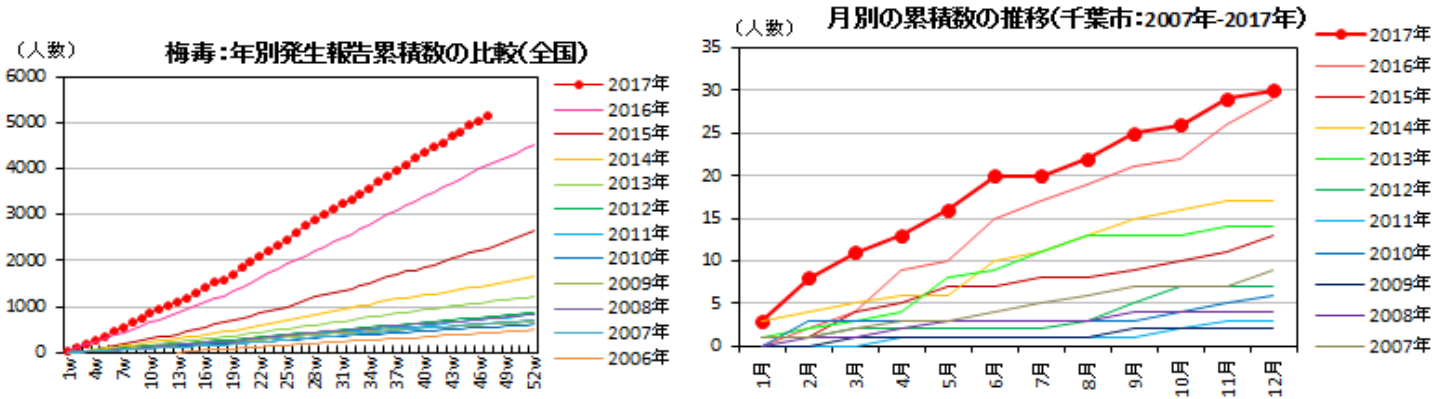
<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し2.56となった。過去10年の同時期と比べると多め。

■ トピック ■

<梅毒>

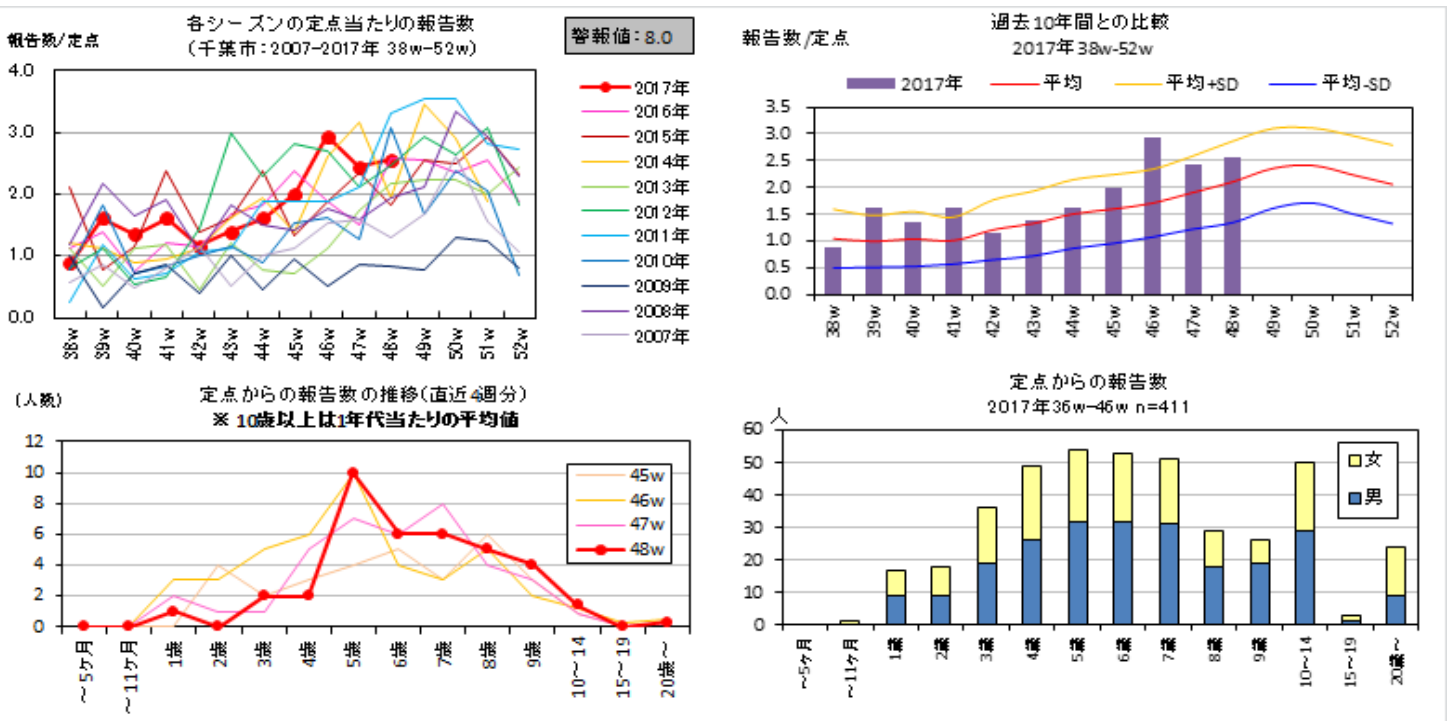
全国レベルの第47週現在の発生届累積数は、過去10年の同時期と比べると最多となっています(昨年の1.3倍)。都道府県別では東京都、大阪府、愛知県の順で多く報告されています。千葉県は全国第9位となっています。千葉市では第48週に2件の発生届があり累積発生届出数が30となり、過去10年で最多であった昨年を上回りました。

内訳は、性別では男性が60.0%(18名)、女性が40.0%(12名)で、年齢階級別では20歳代(40.0%:12名)、40歳代(16.7%:5名)、60歳代(13.3%:4名)の順で多くなっています。病型は早期顕症梅毒Ⅰ期(36.7%:11名)、早期顕症梅毒Ⅱ期(43.3%:13名)、晩期顕症梅毒(6.7%:2名)、無症状病原体保有者(13.3%:4名)で、感染経路は性的接触(90.0%:27名)、再発(3.3%:1名)、不明(6.7%:2名)で、性的接触の内訳は性交(66.7%:18名)、性交及び経口(18.5%:5名)、経口(11.1%:3名)、不明(3.7%:1名)で、性的接触のパートナー別では、異性間(77.8%:21名)、同性間(3.7%:1名)、不明(18.5%:5名)となっています。



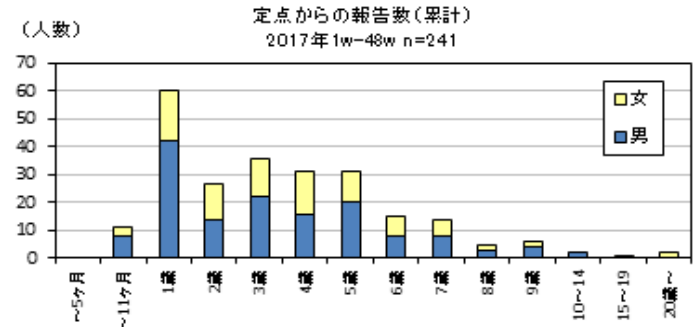
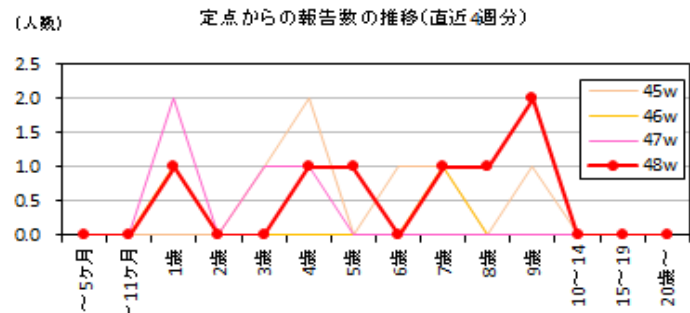
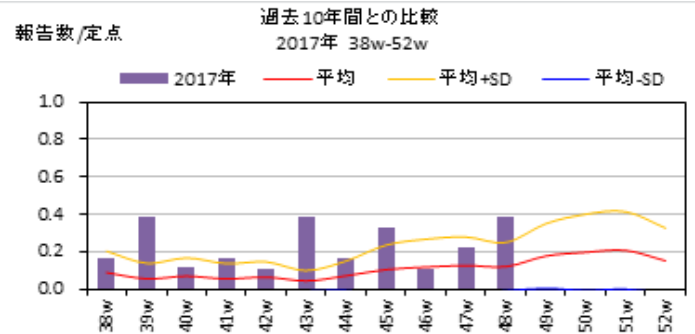
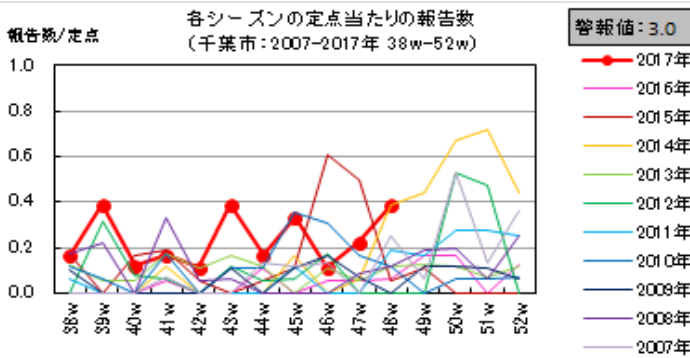
<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第47週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では鳥取県、山形県、福岡県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の2017年第48週は前週より増加し2.56となりました。過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、緑区(5.5/定点)で最多で、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2017年第36週から第48週までの累積報告数(n=411)によると、性別では男性が56.9%(234名)、女性が43.1%(177名)で、年齢階級別では5歳(13.1%:54名)、6歳(12.9%:53名)、7歳(12.4%:51名)の順に多くなっています。



## <咽頭結膜熱>

全国レベルは第39週から過去10年の同時期と比べると最多のまま推移しており、第47週も同様となっています。都道府県別では北海道、富山県、宮崎県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや少なめとなっています。千葉市の2017年第48週は2週連続で増加し0.39となり、過去10年の同時期と比べると2014年と並んで最多となっています。区別の発生状況は、稲毛区(1.33/定点)で最多で、同区の1歳、5歳、7歳及び8歳で発生報告がありました。2017年第1週から第48週までの累積報告数(n=241)によると、性別では男性が61.0%(147名)、女性が39.0%(94名)で、年齢階級別では1歳(24.9%:60名)、3歳(14.9%:36名)、4歳及び7歳(共に12.9%:47名)(12.3%:31名)の順に多くなっています。



## <インフルエンザ>

全国レベルの第47週は、過去10年の同時期と比べて多くなっています。都道府県別では沖縄県、長崎県、愛媛県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルとほぼ同等となっています。千葉市の2017年第48週は前週より若干増加し2.04となりました。過去10年の同時期と比べると平均レベルとなっています。区別の発生状況は、稲毛区(3.5/定点)で最多で、同区の2歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2017年第36週から第48週までの累積報告数(n=184)によると、性別では男性が46.7%(86名)、女性が53.3%(98名)で、年齢階級別では6歳(10.3%:19名)、4歳及び7歳(共に8.7%:16名)の順に多くなっています。

